様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	旭川工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	機械システム工学科	夜・通信		1	6	7	7	
	電気情報工学科	夜・通信			6	7	7	
	システム制御情報工学科	夜・通信			6	7	7	
	物質化学工学科	夜・通信			6	7	7	
	生産システム工学専攻	夜・通信		8	0	8	7	
	応用化学専攻	夜・通信			0	8	7	
（備考）								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=04

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	旭川工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/kisoku/yakuin-20221016.pdf

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日	理事長
常勤	豊橋技術科学大学 理事・副学長	2020 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日	国際交流･海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日	男女共同参画
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	旭川工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 科目の時間数及び担当教員等は，４専門学科及び２専攻ごとに検討した原案を教務委員会で審議のうえ，１月頃決定し，それに基づき授業計画（シラバス）を２月中に作成している。 学生へは４月に web シラバスに記載することにより，公表している。	
授業計画書の公表方法	https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=04
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） 本科については教務規則，専攻科については専攻科の履修等に関する規則により，シラバスに基づき適正に成績評価を行い，教務委員会において審議した後，運営会議において校長が認定している。	
３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要） 本科については教務規則，専攻科については専攻科の履修等に関する規則に基づき，履修科目ごとの成績評価は，シラバスに基づき、前期末及び学年末に学習の成績と平素の成績を総合して 100 点満点で点数化し，全科目の合計点の平均を求め，クラス・専攻ごとに順位を算出している。 なお、成績の分布状況については、次の区分に従ってその分布状況を取りまとめ、各クラス・専攻単位で適用している。 ○　９０点以上 ○　８０点以上９０点未満 ○　７０点以上８０点未満 ○　６０点以上７０点未満 ○　６０点未満	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.asahikawa-nct.ac.jp/info/reikihp/data.files/kitei01/kitei0109/09kyomu.pdf https://www.asahikawa-nct.ac.jp/info/reikihp/data.files/kitei01/kitei0109/11senkoukaH290921.pdf https://www.asahikawa-nct.ac.jp/information/pdf/seisekihyoka.pdf

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 学生が卒業（修了）時に身につける学力や，資質・能力，養成しようとする人材像をより具体化した卒業（修了）認定方針（ディプロマ・ポリシー）を，学科・専攻ごとに定めている。 本科については，成績評価・単位認定規定及び進級・卒業認定規定を，学則及び教務規則に定め，学生生活のしおりやウェブサイト等を通じて学生に十分に周知しており，これらの基準に従って適切かつ厳正に成績評価・単位認定及び進級・卒業認定を行っている。また，成績評価・単位認定及び進級・卒業認定は，前期末及び学年末に教務委員会において関係規則に基づき審議した後，運営会議において校長が認定している。 専攻科については，成績評価・単位認定規定及び修了認定規定を，学則及び専攻科の授業科目の履修等に関する規則に定め，学生生活のしおりやウェブサイト等を通じて学生に十分に周知しており，これらの基準に従って適切かつ厳正に成績評価・単位認定及び修了認定を行っている。また，成績評価・単位認定及び修了認定は，教務委員会において関係規則に基づき審議した後，運営会議において校長が認定している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf https://www.asahikawa-nct.ac.jp/info/reikihp/data.files/kitei01/kitei0101/01gakusoku.pdf https://www.asahikawa-nct.ac.jp/info/reikihp/data.files/kitei01/kitei0109/09kyomu.pdf https://www.asahikawa-nct.ac.jp/info/reikihp/data.files/kitei01/kitei0109/11senkoukaH290921.pdf 「学生生活のしおり」を全学生に配布

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	旭川工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR3.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR3.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/R3jigyouhoukoku.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kansaR3.pdf

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画　対象年度：令和５年度）
公表方法：https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/01_%E7%B7%8F%E5%8B%99/r5-keikaku.pdf
中長期計画（名称：独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画　対象年度：平成 31 年（2019 年）４月１日から令和６年（2024 年）３月 31 日まで）
公表方法：https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/01_%E7%B7%8F%E5%8B%99/4th-keikaku.pdf

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/index3.html

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/index3.html

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　機械システム工学科
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/information/index4.html）
（概要） 1. 一般教養や科学技術に関する基礎的な知識を修得させ，論理的な思考を持って種々の課題に取り組める力を育てる。 2. 機械四力学，材料・加工，設計，計測・制御，エネルギーなど，機械工学に関する知識を幅広く修得させ，地球環境に配慮した機械システムを創造できる力を育てる。 3. 機械システムに関する総合的分野の実験・実習を通して，機械工学に対する実践力を育成し，様々な社会の課題に柔軟に対応できるように，協働性を持って自主的に行動できる力を育てる。 4. 母国を含めた様々な文化や多様性を理解する力と日本語や外国語などによるコミュニケーション能力を育成し，国際的視野を持ってグローバルに活躍できる力を育てる。 5. 分野横断的活動や卒業研究を通して，課題を発見し，問題を解決できる力を育成し，広い視野を持った思考力と創造性を発揮して地球環境に配慮した機械システムを創造する力を育てる。 6. 健康体育，キャリアデザインなどを通して，健全な心身を備えさせ，将来的視野を持って自身を磨き続けられる力を育てる。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf）
（概要） 学生が卒業（修了）時に身につける学力や，資質・能力，養成しようとする人材像をより具体化した卒業（修了）認定方針（ディプロマ・ポリシー）を，以下のとおり定めている。 1. 深い専門的な内容を理解するための基礎となる知識と，社会に資するための素養や最先端の科学技術を理解する力を身につけ，論理的思考をもって課題に取り組むことができる。 2. 機械四力学，材料・加工，設計，計測・制御，エネルギーなどの知識と，機械工学に必要な考え方を身につけ，地球環境に配慮した機械システムを創造することができる。 3. 機械システムに関する総合的分野の実践力を身につけ，社会的課題に対応できるように，他者と協働しながら自主的に行動することができる。 4. 日本語や外国語などによるコミュニケーション能力と異文化や異なる価値観を理解する力を身につけ，国際的視野を持って物事を考えることができる。 5. 自らの専門分野を中心として他分野に渡る課題を発見したり，問題を解決できる力を身につけ，広い視野を持った思考力と創造性を発揮して，地球環境に配慮した機械システムを創造することができる。 6. 豊かな人間性と健全な心身を備え，自らのありたい姿を実現するために必要な素養を身につけ，継続して自己研鑽することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf）
（概要） ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため，低学年から専門科目を配置し，学年進行とともに専門科目が多くなるくさび型に授業科目を編成している。

1. 社会に貢献でき，日々進歩する科学技術の理解を深めることができる基礎能力を育成するために，数学，物理，化学などの理系基礎科目や一般教養科目を系統的に編成する。
2. 機械工学における基礎知識を育成するために，機械四力学（材料力学，熱力学，流体力学，機械力学）を中心に科目を配置し，地球環境に配慮した機械システムを創造できる力を備えるため，材料・加工系科目，設計系科目，計測・制御系科目，エネルギー系科目などを幅広く系統的に編成する。
3. 工学的な基礎知識を応用しながら必要な技術的スキルを育成するために，機械システムに関する総合的分野の実験，実習などのグループ活動を通じて他者と協働しながら実践力を身につけることができる実験・実習科目を各学年に系統的に編成する。
4. 円滑なコミュニケーション能力を育成するために，国語，英語コミュニケーションなどの科目を配置し，異なる文化・価値観を理解する力を育成するために，社会系科目（地理，公民など），グローバル科目などを系統的に編成する。
5. 多角的な視野と創造力を育成するために，課題解決系実験・演習科目，分野横断型実験・演習科目及び卒業研究などを系統的に編成する。
6. 健全な心身を育成するために，健康体育などの科目を配置し，さらに。将来に向かって自己研鑽し，主体的な行動力を育成するために，キャリアデザイン，インターンシップなどの科目を編成する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf）

（概要）
本校の教育理念及び具体的な教育目標に沿って，準学士課程，専攻科課程それぞれに，求める人物像を定めている。また，入学者選抜の基本方針として，準学士課程では推薦選抜と学力選抜を実施することとしている。

1. 科学とエネルギー・環境の関わりを学びたい人
2. モノづくりによって世の中を幸せにしたい人
3. グローバルな視野を持って，国内及び国際社会で活躍したい人
4. 機械に興味を持ち，未知のことにチャレンジする人
5. いつも夢を持ち，その実現まであきらめないで努力を続ける人

学部等名　電気情報工学科

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/information/index4.html）

（概要）
1. 一般教養や科学技術に関する基礎的な知識を修得させ，論理的な思考を持って種々の課題に取り組める力を育てる。
2. 電気電子工学の基礎知識，情報工学の基礎知識をバランス良く修得させ，その上に専門的能力を身に付けさせるとともに，電気電子技術と情報技術が融合する新技術分野に柔軟に対応できる力を育てる。
3. 電気・電子，情報分野の実験・実習を通して，技術が社会に与える影響や環境について考える力を育成し，電気・電子・情報技術を用いてエネルギー・環境問題等に柔軟に対応できるように，協働性を持って自主的に行動できる力を育てる。
4. 母国を含めた様々な文化や多様性を理解する力と日本語や外国語などによるコミュニケーション能力を育成し，国際的視野を持ってグローバルに活躍できる力を育てる。
5. 電気・電子・情報分野での課題を発見し，問題を解決できる力を育成し，自主的な学習を通して，広い視野を持った思考力と創造性を発揮して総合的に判断する力を育てる。
6. 健康体育，キャリアデザインなどを通して，健全な心身を備えさせ，将来的視野を持って自身を磨き続けられる力を育てる。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf）

（概要）
学生が卒業（修了）時に身につける学力や，資質・能力，養成しようとする人材像をより具体化した卒業（修了）認定方針（ディプロマ・ポリシー）を，以下のとおり定めている。

1. 深い専門的な内容を理解するための基礎となる知識と，社会に資するための素養や最先端の科学技術を理解する力を身につけ，論理的思考をもって課題に取り組むことができる。
2. 工学基礎および，電気・電子工学，情報工学の専門知識と，電気・電子技術と情報技術とが融合する広い専門的視野を身につけ，新技術分野に柔軟に対応することができる。
3. 電気・電子・情報分野の実践力を身につけ，技術が社会に与える影響や環境について他者と協働しながら自主的に思考し行動することができる。
4. 日本語や外国語などによるコミュニケーション能力と異文化や異なる価値観を理解する力を身につけ，国際的視野を持って物事を考えることができる。
5. 自らの専門分野を中心として他分野に渡る課題を発見したり，問題を解決できる力を身につけ，自主的な学習を通して，広い視野を持った思考力と創造性を発揮して総合的な判断をすることができる。
6. 豊かな人間性と健全な心身を備え，自らのありたい姿を実現するために必要な素養を身につけ，継続して自己研鑽することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf）

（概要）
ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため，低学年から専門科目を配置し，学年進行とともに専門科目が多くなるくさび型に授業科目を編成している。

1. 社会に貢献でき，日々進歩する科学技術の理解を深めることができる基礎能力を育成するために，数学，物理，化学などの理系基礎科目や一般教養科目を系統的に編成する。
2. 幅広い分野における基礎知識を育成するために，電気回路，電子回路，電磁気学や半導体工学，環境エネルギー工学等の電気電子分野の科目とともに，コンピュータ工学，サイバーセキュリティ，知覚情報処理工学等の情報工学分野の授業科目を系統的に編成する。
3. 工学的な基礎知識を応用しながら必要な技術的スキルを育成するために，電気・電子，情報分野の実験，実習などのグループ活動を通じて他者と協働しながら実践力を身につけることができる実験・実習科目を各学年に系統的に編成する。
4. 円滑なコミュニケーション能力を育成するために，国語，英語コミュニケーションなどの科目を配置し，異なる文化・価値観を理解する力を育成するために，社会系科目（地理，公民など），グローバル科目などを系統的に編成する。
5. 多角的な視野と創造力を育成するために，課題解決系実験・演習科目，分野横断型実験・演習科目及び卒業研究などを系統的に編成する。
6. 健全な心身を育成するために，健康体育などの科目を配置し，さらに。将来に向かって自己研鑽し，主体的な行動力を育成するために，キャリアデザイン，インターンシップなどの科目を編成する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf）

（概要）
本校の教育理念及び具体的な教育目標に沿って，準学士課程，専攻科課程それぞれに，求める人物像を定めている。また，入学者選抜の基本方針として，準学士課程では推薦選抜と学力選抜を実施することとしている。

1. 情報ネットワークやエレクトロニクスについて学びたい人
2. 電子，情報，通信の総合技術のたくさんの分野で，世の中を幸せにしたい人

3. グローバルな視野を持って，国内及び国際社会で活躍したい人
4. プログラムやサイエンスに興味を持ち，未知のことにチャレンジする人
5. いつも夢を持ち，その実現まであきらめないで努力を続ける人

学部等名　システム制御情報工学科

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/information/index4.html）

（概要）
1. 一般教養や科学技術に関する基礎的な知識を修得させ，論理的な思考を持って種々の課題に取り組める力を育てる。
2. 機械工学，電気・電子工学，情報工学における知識をバランス良く修得させ，多様な分野において様々なシステムをデザインできる力を育てる。
3. 機械，電気・電子，情報，物理分野の実験・実習を通して，得られた知識を応用できる実践力を育成し，様々な社会の課題に柔軟に対応できるように，協働性を持って自主的に行動できる力を育てる。
4. 母国を含めた様々な文化や多様性を理解する力と日本語や外国語などによるコミュニケーション能力を育成し，国際的視野を持ってグローバルに活躍できる力を育てる。
5. 分野横断的活動や卒業研究を通して，課題を発見し，問題を解決できる力を育成し，広い視野を持った思考力と創造性を発揮して新たなシステムを生み出す力を育てる。
6. 健康体育，キャリアデザインなどを通して，健全な心身を備えさせ，将来的視野を持って自身を磨き続けられる力を育てる。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf）

（概要）
学生が卒業（修了）時に身につける学力や，資質・能力，養成しようとする人材像をより具体化した卒業（修了）認定方針（ディプロマ・ポリシー）を，以下のとおり定めている。

1. 深い専門的な内容を理解するための基礎となる知識と，社会に資するための素養や最先端の科学技術を理解する力を身につけ，論理的思考をもって課題に取り組むことができる。
2. 機械工学，電気・電子工学，情報工学における知識と，システムデザインの考え方を身につけ，多様な複合・融合領域にまたがる分野に対応することができる。
3. 機械，電気・電子，情報分野の実践力を身につけ，社会的課題に対応できるように，他者と協働しながら自主的に行動することができる。
4. 日本語や外国語などによるコミュニケーション能力と異文化や異なる価値観を理解する力を身につけ，国際的視野を持って物事を考えることができる。
5. 自らの専門分野を中心として他分野に渡る課題を発見したり，問題を解決できる力を身につけ，広い視野を持った思考力と創造性を発揮して，様々なシステムをデザインすることができる。
6. 豊かな人間性と健全な心身を備え，自らのありたい姿を実現するために必要な素養を身につけ，継続して自己研鑽することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf）

（概要）
ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため，低学年から専門科目を配置し，学年進行とともに専門科目が多くなるくさび型に授業科目を編成している。

1. 社会に貢献でき，日々進歩する科学技術の理解を深めることができる基礎能力を育成するために，数学，物理，化学などの理系基礎科目や一般教養科目を系統的に編成する。

2. 幅広い分野における基礎知識を育成するために，機械系科目（材料力学，CAD 等），電気電子系科目（電気工学，制御工学等），情報系科目（情報処理，数値計算等）の 3 分野の基礎知識をバランス良く配置し，さらに多様で変化の激しい社会に対応できる力を備えるため，3 つの分野を融合した科目（メカトロニクス，ロボティクスなど）を系統的に編成する。
3. 工学的な基礎知識を応用しながら必要な技術的スキルを育成するために，機械，電気・電子，情報分野の実験，実習などのグループ活動を通じて他者と協働しながら実践力を身につけることができる実験・実習科目を各学年に系統的に編成する。
4. 円滑なコミュニケーション能力を育成するために，国語，英語コミュニケーションなどの科目を配置し，異なる文化・価値観を理解する力を育成するために，社会系科目（地理，公民など），グローバル科目などを系統的に編成する。
5. 多角的な視野と創造力を育成するために，課題解決系実験・演習科目，分野横断型実験・演習科目及び卒業研究などを系統的に編成する。
6. 健全な心身を育成するために，健康体育などの科目を配置し，さらに。将来に向かって自己研鑽し，主体的な行動力を育成するために，キャリアデザイン，インターンシップなどの科目を編成する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf）

（概要）
本校の教育理念及び具体的な教育目標に沿って，準学士課程，専攻科課程それぞれに，求める人物像を定めている。また，入学者選抜の基本方針として，準学士課程では推薦選抜と学力選抜を実施することとしている。

1. ロボットなどを作り動かすために必要な知識や技術を学びたい人
2. 幅広い知識や技術を用いて世の中を幸せにするモノづくりをしたい人
3. グローバルな視野を持って，国内及び国際社会で活躍したい人
4. コンピュータを用いたモノづくりに興味を持ち，未知のことにチャレンジする人
5. いつも夢を持ち，その実現まであきらめないで努力を続ける人

学部等名　物質化学工学科

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/information/index4.html）

（概要）
1. 一般教養や科学技術に関する基礎的な知識を修得させ，論理的な思考を持って種々の課題に取り組める力を育てる。
2. 材料化学，生物化学及び計測化学分野の専門知識と応用力を修得させ，広い視点と豊かな人間性を持って，種々の課題に取り組める力を育てる。
3. 材料化学，生物化学及び計測化学分野の確かな実習スキルと，倫理や安全に関する高い意識を育成し，様々な社会の課題に対応できるよう，協働性を持って自主的に行動できる実践力を育てる。
4. 母国を含めた様々な文化や多様性を理解する力と日本語や外国語などによるコミュニケーション能力を育成し，国際的視野を持ってグローバルに活躍できる力を育てる。
5. 分野横断的活動や卒業研究を通して，課題を発見し，その解決に向けて創造性を発揮できる力を育成するとともに，果敢に未知の領域（環境保全・国際協働等）に挑戦できる力を育てる。
6. 健康体育，キャリアデザインなどを通して，健全な心身を備えさせ，将来的視野を持って自身を磨き続けられる力を育てる。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf）

（概要）
学生が卒業（修了）時に身につける学力や，資質・能力，養成しようとする人材像をより具体化した卒業（修了）認定方針（ディプロマ・ポリシー）を，以下のとおり定めている。

1. 深い専門的な内容を理解するための基礎となる知識と，社会に資するための素養や最先端の科学技術を理解する力を身につけ，論理的思考をもって課題に取り組むことができる。
2. 化学及び生物学に関する基礎知識と専門知識を身につけ，様々な課題を理論的に考察することができる。
3. 確かな実験スキルと安全意識，倫理観を身につけ，様々な課題に対して実践的に対処することができる。
4. 日本語や外国語などによるコミュニケーション能力と異文化や異なる価値観を理解する力を身につけ，国際的視野を持って物事を考えることができる。
5. 自らの専門分野を中心として他分野に渡る課題を発見したり，問題を解決できる力を身につけ，高度で複雑な諸問題にも積極的，かつ創造性を持って挑戦することができる。
6. 豊かな人間性と健全な心身を備え，自らのありたい姿を実現するために必要な素養を身につけ，継続して自己研鑽することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf）

（概要）
ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため，低学年から専門科目を配置し，学年進行とともに専門科目が多くなるくさび型に授業科目を編成している。

1. 社会に貢献でき，日々進歩する科学技術の理解を深めることができる基礎能力を育成するために，数学，物理，化学などの理系基礎科目や一般教養科目を系統的に編成する。
2. 複雑化する社会ニーズに対応できる幅広い基礎知識と高い専門知識の両方を育成するために，化学及び生物分野の基礎についてバランス良く学習した上で，材料化学，生物化学及び計測化学分野のいずれかを中心とするより高度な専門科目を系統的に編成する。
3. 工学的な基礎知識を応用しながら化学，生物分野における確かな実験スキル，ならびに高度な科学技術を活用する上で必要不可欠となる倫理観と化学薬品，設備等に関する安全意識を育成するために，グループで他者と協働しながら実践力を身につけることができる実験科目を各学年に系統的に編成する。
4. 円滑なコミュニケーション能力を育成するために，国語，英語コミュニケーションなどの科目を配置し，異なる文化・価値観を理解する力を育成するために，社会系科目（地理，公民など），グローバル科目などを系統的に編成する。
5. 豊かな創造性と高いコミュニケーション・プレゼンテーション能力を育成するために，PBL など分野横断的活動や課題解決系実験・演習科目及び卒業研究などを系統的に編成する。
6. 健全な心身を育成するために，健康体育などの科目を配置し，さらに。将来に向かって自己研鑽し，主体的な行動力を育成するために，キャリアデザイン，インターンシップなどの科目を編成する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf）

（概要）
本校の教育理念及び具体的な教育目標に沿って，準学士課程，専攻科課程それぞれに，求める人物像を定めている。また，入学者選抜の基本方針として，準学士課程では推薦選抜と学力選抜を実施することとしている。

1. 新素材，バイオテクノロジー，環境などに関する知識と技術を学びたい人
2. 化学や生物の分野で，世の中を幸せにするモノづくりをしたい人

3. グローバルな視野を持って，国内及び国際社会で活躍したい人
4. 実験・観察・モノづくりに興味を持ち，未知のことにチャレンジする人
5. いつも夢を持ち，その実現まであきらめないで努力を続ける人

学部等名　生産システム工学専攻

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/information/index4.html）

（概要）
機械システム工学科，電気情報工学科及び制御情報工学科で教授した教育内容を基礎とし，それぞれの専門分野の技術が融合した境界領域分野の諸問題にも対応できるように教育課程を編成し，メカトロニクス，エレクトロニクス，コンピュータ応用等の技術が融合した生産システム分野において活躍できる，総合的能力を備えた技術者を育成する。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf）

（概要）
学生が卒業（修了）時に身につける学力や，資質・能力，養成しようとする人材像をより具体化した卒業（修了）認定方針（ディプロマ・ポリシー）を，以下のとおり定めている。

1. 本科で修得した機械工学，電気・電子工学，情報工学の基礎の上に，より深く高度な知識・技術を身につけ，専門分野および複合・境界領域の諸問題に自主的に対応できる。
2. 専門分野および複合・境界領域分野の実験・実習を通じて実践力を身につけ，技術が社会に与える影響や環境について，自主的に思考し行動できる。
3. 専門分野および複合・境界領域に対して，課題発見能力，課題解決能力，コミュニケーション・プレゼンテーション能力をもち，自主的な学習を通して豊かな創造力を発揮し総合的な判断ができる。
4. 豊かな教養と論理的で柔軟な思考力，倫理観および国際的視野を身につけ，社会に貢献できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf）

（概要）
ディプロマ・ポリシーに沿って以下のように教育課程を編成する。

1. 専門分野の知識・技術を修得する科目として，機械工学，電気・電子工学，情報工学分野を，複合・境界領域の知識・技術を修得する科目として，環境マネジメント，環境科学等を編成する。
2. 専門分野および複合・境界領域分野を修得する科目として，工学情報処理演習，生産システム工学特別実験等を編成する。
3. 豊かな創造力を発揮し総合的な判断能力を修得する科目として，エンジニアリングデザイン，生産システム工学特別研究，生産システム工学特別ゼミナール等を編成する。
4. 豊かな教養と論理的で柔軟な思考力，倫理観および国際的視野を修得する科目として，技術者倫理，英語総合演習，国際関係論，歴史と文化等を配置する。
5. 学習成果の評価においては，各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度を目安として成績評価基準を策定する。また，学生が自ら知識や理解の到達度を確認できるように配慮する。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf）

（概要）
本校の教育理念及び具体的な教育目標に沿って，準学士課程，専攻科課程それぞれに，求める人物像を定めている。また，入学者選抜の基本方針として，専攻科課程では推薦選抜，学力選抜及び社会人選抜を実施することとしている。

1. 機械工学，電気・電子工学，情報工学に関連する十分な基礎学力を有する人
2. 機械工学，電気・電子工学，情報工学に関連する分野の高度な知識と技術，実践力を身に付けたい人
3. 機械工学，電気・電子工学，情報工学に関連する分野で，社会の発展に貢献できる技術者・研究者を目指す人
4. 目的に向けて，主体的かつ継続的に努力できる人

学部等名　応用化学専攻

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/information/index4.html）

（概要）
物質化学工学科で教授した教育内容を基礎とし，化学・バイオ関連産業における専門的な実務に携わることを前提とした教育課程を編成し，製品・技術の開発及びそれに伴う環境や社会への配慮等に柔軟に対応できる，総合的能力を備えた技術者を育成する。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf）

（概要）
学生が卒業（修了）時に身につける学力や，資質・能力，養成しようとする人材像をより具体化した卒業（修了）認定方針（ディプロマ・ポリシー）を，以下のとおり定めている。

1. 本科で修得した化学および生物分野の基礎の上に，より深く高度な知識・技術を身につけ，専門分野に加えて複合・境界領域の諸問題にも自主的に対応できる。
2. 化学および生物分野における高度な実験・実習を通じて実践力を身につけ，技術が社会に与える影響や環境について，自主的に思考し行動できる。
3. 専門分野および複合・境界領域に対して，課題発見能力，課題解決能力，コミュニケーション・プレゼンテーション能力をもち，自主的な学習を通して豊かな創造力を発揮し総合的な判断ができる。
4. 豊かな教養と論理的で柔軟な思考力，倫理観および国際的視野を身につけ，社会に貢献できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf）

（概要）
ディプロマ・ポリシーに沿って以下のように教育課程を編成する。

1. 専門分野の知識・技術を修得する科目として，化学，生物分野を，複合・境界領域の知識・技術を修得する科目として，環境マネジメント，環境科学等を編成する。
2. 専門分野および複合・境界領域分野を修得する科目として，化学情報工学，応用化学特別実験等を編成する。
3. 豊かな創造力を発揮し総合的な判断能力を修得する科目として，エンジニアリングデザイン，応用化学特別研究，応用化学特別ゼミナール等を編成する。
4. 豊かな教養と論理的で柔軟な思考力，倫理観および国際的視野を修得する科目として，技術者倫理，英語総合演習，国際関係論，歴史と文化等を配置する。
5. 学習成果の評価においては，各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度を目安として成績評価基準を策定する。また，学生が自ら知識や理解の到達度を確認できる

ように配慮する。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/gakkou/pdf/DP_CP_AP.pdf）
（概要） 本校の教育理念及び具体的な教育目標に沿って，準学士課程，専攻科課程それぞれに，求める人物像を定めている。また，入学者選抜の基本方針として，専攻科課程では推薦選抜，学力選抜及び社会人選抜を実施することとしている。 1. 化学および生物分野に関する十分な基礎学力を有する人 2. 化学および生物分野の高度な知識と技術，実践力を身に付けたい人 3. 化学および生物関連の分野で，社会の発展に貢献できる技術者・研究者を目指す人 4. 目的に向けて，主体的かつ継続的に努力できる人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/information/index4.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	5人	－					5人
機械システム工学科	－	2人	6人	0人	1人	0人	9人
電気情報工学科	－	4人	2人	2人	0人	0人	8人
システム制御情報工学科	－	4人	3人	0人	0人	1人	8人
物質化学工学科	－	3人	5人	0人	1人	0人	9人
人文理数総合科	－	9人	9人	0人	2人	1人	21人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0人	20人	20人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：https://research.kosen-k.go.jp/plugin/rmaps/index/11/122?area=A01&affiliation=6512&page=1#frame-122

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

ＦＤ・ＳＤ推進室において，年度当初にＦＤ事業計画を審議し，実行している。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員(a)	入学者数(b)	b/a	収容定員(c)	在学生数(d)	d/c	編入学定員	編入学者数
機械システム工学科	40人	30人	75%	200人	176人	88%	若干名	0人
電気情報工学科	40人	34人	85%	200人	185人	92.5%	若干名	2人
システム制御情報工学科	40人	37人	92.5%	200人	191人	95.5%	若干名	0人
物質化学工学科	40人	34人	85%	200人	200人	100%	若干名	1人
合計	160人	135人	84.4%	800人	752人	94%	若干名	3人
生産システム工学専攻	12人	27人	225%	24人	41人	170.8%		
応用化学専攻	4人	7人	175%	8人	14人	175%		
合計	16人	34人	212.5%	32人	55人	171.9%		

（備考）

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
機械システム工学科	31 人 （100%）	16 人 （51.6%）	14 人 （45.2%）	1 人 （3.2%）
電気情報工学科	37 人 （100%）	15 人 （40.5%）	21 人 （56.8%）	1 人 （2.7%）
システム制御情報工学科	41 人 （100%）	18 人 （43.9%）	22 人 （53.7%）	1 人 （2.4%）
物質化学工学科	38 人 （100%）	17 人 （44.8%）	20 人 （52.6%）	1 人 （2.6%）
合計	147 人 （100%）	66 人 （44.9%）	77 人 （52.4%）	4 人 （2.7%）
生産システム工学専攻	19 人 （100%）	6 人 （31.6%）	12 人 （63.1%）	1 人 （5.3%）
応用化学専攻	9 人 （100%）	5 人 （55.6%）	3 人 （33.3%）	1 人 （11.1%）
合計	28 人 （100%）	11 人 （39.3%）	15 人 （53.6%）	2 人 （7.1%）

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）
室蘭工業大学，北見工業大学，公立はこだて未来大学，公立千歳科学技術大学，国策機工(株)，(株)日産自動車オートモーティブテクノロジー，(株)半導体エネルギー研究所，(株)タマディック，(株) アットマークテクノ，北海道電力(株)，會澤高圧コンクリート(株)，(株)日本触媒

（備考）

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
合計	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）

（備考）

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
科目担当教員等は，４専門学科及び２専攻ごとに検討された原案を教務委員会で審議のうえ，１月頃決定し，それに基づき授業計画（シラバス）を２月中に作成している。
学生へは４月に web シラバスに記載することにより，公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
学生が卒業（修了）時に身につける学力や，資質・能力，養成しようとする人材像をより具体化した卒業（修了）認定方針（ディプロマ・ポリシー）を，学科・専攻ごとに定めている。
本科については，成績評価・単位認定規定や，進級・卒業認定基準を，学則及び教務規則に定めており，学生生活のしおりやウェブサイト等を通じて学生に十分に周知されており，これらの基準に従って適切かつ厳正に成績評価，単位認定及び進級・卒業認定を行っている。また，成績評価・単位認定及び進級・卒業認定は，前期末及び学年末に教務委員会において関係規則に基づき審議した後，運営会議において校長が認定している。
専攻科については，成績評価・単位認定，修了認定基準を，学則及び専攻科の履修等に関する規則に定めており，学生生活のしおりやウェブサイト等を通じて 学生に十分に周知されており，これらの基準に従って適切かつ厳正に成績評価，単位認定及び修了認定を行っている。
また，成績評価・単位認定及び修了認定は，教務委員会において関係規則に基づき審議した後，運営会議において校長が認定している。

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
	機械システム工学科	167 単位	有・無	単位
	電気情報工学科	167 単位	有・無	単位
	システム制御情報工学科	167 単位	有・無	単位
	物質化学工学科	167 単位	有・無	単位
	生産システム工学専攻	62 単位	有・無	単位
	応用化学専攻	62 単位	有・無	単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/information/index4.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	機械システム工学科	234,600 円	84,600 円	9,550 円～155,150 円	（内訳） スポーツ振興センター共済掛金：1,550 円 学生会費：8,000 円 ※以下，入寮者のみ 寄宿料：8,400 円～9,600 円 寮費：130,000 円～136,000 円
	電気情報工学科				
	システム制御情報工学科				
	物質化学工学科				
	生産システム工学専攻			1,550 円	（内訳） スポーツ振興センター共済掛金：1,550 円
	応用化学専攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 修学上特別な支援が必要な学生の把握は，入学手続時に行うとともに，保護者と面談を行った上で要望に沿った支援ができるように修学支援室が対応している。 高等教育の修学支援新制度による支援を受けている学生，予約採用の学生，入学後に修学支援新制度の申請手続きを行う予定の学生については，入学料及び前期授業料の徴収を猶予し，後日確定した入学料・授業料を徴収している。
b.進路選択に係る支援に関する取組
（概要） より包括的な進路指導を行うために，キャリア形成室を学生総合支援センターの下に設置し，望ましい職業観を身に付けることと，自らの個性を理解するキャリア教育を低学年のうちから行っている。
c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 悩み，心配，不安，病気その他様々な問題を抱えている学生や障害学生修学支援の対応のため，医務室には看護師２名，専門カウンセラー３名の体制で支援を行っている。 また，心身両面の健康維持のために，看護師が常駐する医務室及び非常勤カウンセラーを配置した学生相談室が有効利用され，様々な相談に対応している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.asahikawa-nct.ac.jp/information/index4.html

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	G101110100562
学校名	旭川工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		40人	39人	79人
内訳	第Ⅰ区分	18人	21人	
	第Ⅱ区分	11人	－	
	第Ⅲ区分	11人	－	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				79人
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の５割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下）		0人	0人
出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当		–	–
計		–	–
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間		前半期	0人	後半期	0人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の６割以下（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下）		0人	0人
ＧＰＡ等が下位４分の１		－	－
出席率が８割以下その他学修意欲が低い状況		－	0人
計		－	－
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。